

「主な取組」検証票

施策展開	2-(5)-イ	戦後処理問題の解決	施策	③ 沖縄戦没者の遺骨収集
			施策の小項目名	—
主な取組	遺骨収集情報センターの活用			
対応する主な課題	③沖縄戦没者の遺骨収集については、遺族や戦争体験者等の高齢化により情報収集が難しくなっていることから、遺骨情報の一元化やボランティア団体への支援など、組織的・計画的な取組による遺骨収集の加速化が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアによる遺骨収集活動を支援することにより、遺骨収集の加速化を図る。					
	遺骨収集情報センターへの未収骨情報の一元化				
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部保護・援護課 【098-866-2428】				
	ボランティア団体等への情報提供				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)												
予算事業名							R2年度				令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画			
									OR元年度	OR2年度		
各省計上	委託	14,792	15,300	17,176	21,384	22,705	23,253	各省計上	OR元年度：西原町等(38箇所)において戦没者未収骨壕等調査を実施し、未収骨の状況を把握した。また、ボランティア団体へも必要に応じて情報提供を行った。	OR2年度：県内市町村(調整中)において戦没者未収骨壕等調査を実施し、未収骨の状況を把握する。また、ボランティア団体へも必要に応じて情報提供を行う。		
予算事業名							R2年度				令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画			
									OR元年度	OR2年度		
		—	—	—	—	—	—		OR元年度：—	OR2年度：—		
活動指標名	情報センターによる市町村別未収骨情報調査状況				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	22,705		順調	西原町等(38箇所)において戦没者未収骨壕等調査を実施、資料調査、戦争体験者や関係者からの聞き取り調査を行い、未収骨の状況を把握した。	
	2	1	1	1	1	—	100.0%					
活動指標名					R元年度						22,705	順調
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		西原町等(38箇所)において戦没者未収骨壕等調査を実施、資料調査、戦争体験者や関係者からの聞き取り調査を行った結果、未収骨の情報は得られなかった。今後は確度の高い未収骨情報が得られた場合には、厚生労働省に対して当該箇所の情報提供を行う予定である。			
	実績値	—	—	—	—	—	—					
活動指標名		—				R元年度			22,705	順調		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	—	—	—	—	—	—	—					
(2) これまでの改善案の反映状況												
令和元年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> 遺骨収集を行っている団体やボランティアから、更に詳細な情報(地域でまだ未収骨に関する情報を持っている人から証言を聞き出す等)を収集する。また、地域住民や市町村からも情報収集する。 厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や市町村へ証言できそうな人を紹介してもらっているが、なかなか当時の情報を持っている方が少ないことから、引き続き情報収集を行う。 昨年度に引き続き、今年度(令和元年度)も実施したが、未収骨情報は得られなかった。今後も資料に基づき引き続き調査を行っていく。 						

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・戦後70年以上が経過し、戦争体験者や遺族の高齢化等により、戦没者遺骨の情報収集がよりいっそう難しくなっている。

○外部環境の変化

・戦後70年以上が経過していることから、収骨・未収骨の状況を把握している者の数が少なく、また、調査協力者が高齢であるため、聞き取った収骨・未収骨情報が曖昧であったり、不正確であったりする場合がある。そのため、当時の状況を知る方々が生存している間に遺骨収集を加速させる必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・遺骨収集を行っている団体やボランティア、引退された方々も含め、壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。また、地域住民や市町村からも精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・遺骨収集を行っている団体やボランティアから、更に詳細な情報 (地域でまだ未収骨に関する情報を持っている人から証言を聞き出す等) を収集する。また、地域住民や市町村からも情報収集する。

・厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。

「主な取組」検証票

施策展開	2-(5)-イ	戦後処理問題の解決	施策	③ 沖縄戦没者の遺骨収集
			施策の小項目名	—
主な取組	民間ボランティア団体等の活動支援			
対応する主な課題	③沖縄戦没者の遺骨収集については、遺族や戦争体験者等の高齢化により情報収集が難しくなっていることから、遺骨情報の一元化やボランティア団体への支援など、組織的・計画的な取組による遺骨収集の加速化が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアによる遺骨収集活動を支援することにより、遺骨収集の加速化を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部保護・援護課 【098-866-2428】					
		遺骨収集を行う民間ボランティア団体等の活動支援				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)													
予算事業名							R2年度			令和元年度活動内容と令和2年度活動計画			
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： 遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアに対する活動支援を行うことにより、遺骨収集の加速化を図った。支援団体数4団体				
									OR2年度： 遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアに対する活動支援を行うことにより、遺骨収集の加速化を図る。				
各省計上	委託	1,538	1,840	1,432	1,800	2,400	2,000	各省計上					
予算事業名							R2年度			令和元年度活動内容と令和2年度活動計画			
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： —				
									OR2年度： —				
		—	—	—	—	—	—						
活動指標名	ボランティア支援件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要			
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				2,400	順調	遺骨収集実績の約9割を占める民間団体やボランティアに対する活動支援（車両燃料代、弁当代等を支援）を行うことにより、遺骨収集の加速化を図った。（支援団体数4団体）
	6	4	3	3	4	—	100.0%						
活動指標名	—				R元年度			—	—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果			
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B						
	—	—	—	—	—	—	—						
活動指標名	—				R元年度			—	—				
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B						
	—	—	—	—	—	—	—						
(2) これまでの改善案の反映状況													
令和元年度の取組改善案						反映状況							
<ul style="list-style-type: none"> 遺骨収集を行っているボランティアや、地域住民等からヒアリング等の機会を多く持つことで、更に詳細な情報を収集する。さらに厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。 これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は学生ボランティアなど若い世代への取り組みが引き継がれるよう支援を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 関係者からのヒアリングを持つ機会を多くしているが、戦後70年を経過していることから情報の正確性が不十分であった。 若い世代で遺骨収集を希望する方々に対し、情報センターを通して未収骨情報の提供や、ボランティア団体の紹介、活動支援を行った。 							

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ ボランティア等による収骨活動は行われたが、収骨に至らなかった現場もあった。
- ・ 今後とも精度の高い未収骨情報を地域住民や市町村から収集し、民間団体やボランティア団体等に対して当該情報を提供していく必要がある。
- ・ これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は遺骨収集活動を行う学生ボランティアなど若い世代への取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

○外部環境の変化

- ・ 戦後70年以上が経過し、戦争体験者の減少、高齢化により情報収集がよりいっそう難しくなっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 県の担当者のみでは遺骨情報の収集には限界があるため、遺骨収集を行っている団体やボランティア等あるいは地域住民や証言者から、壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集及び情報提供を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 遺骨収集を行っているボランティアや、地域住民等からヒアリング等の機会を多く持つことで、更に詳細な情報を収集する。さらに厚生労働省が米国公文書館から入手した沖縄県内の未収骨に関する情報を調査分析し、新たな未収骨情報の収集に努める。
- ・ これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は学生ボランティアなど若い世代への取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	2-(5)-イ	戦後処理問題の解決	施策	③ 沖縄戦没者の遺骨収集
			施策の小項目名	—
主な取組	一元化された未収骨情報による遺骨収集の加速化			
対応する主な課題	③沖縄戦没者の遺骨収集については、遺族や戦争体験者等の高齢化により情報収集が難しくなっていることから、遺骨情報の一元化やボランティア団体への支援など、組織的・計画的な取組による遺骨収集の加速化が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
可能な限り遺骨を収集するため、遺骨収集の更なる加速化（民間ボランティア団体への支援の強化）を図り、一定期間を目途に集中的に取り組むよう国に要請する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国、県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部保護・援護課 【098-866-2428】					
		遺骨収集の加速化及び一定期間を目途にした集中的取組に係る国への要請				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)											
予算事業名											
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画		
							当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度	
		—	—	—	—	—	—		OR元年度： 埋没壕等の危険を伴う現場での遺骨収集について、厚生労働省に要請することとしているが、今年度も山城壕（糸満市）について報告を行った。 OR2年度： 関係者への聞き取り等、戦没者未収骨壕等調査の結果に基づき、埋没壕等の危険を伴う現場での遺骨収集について厚生労働省に要請を行う。		
予算事業名											
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画		
							当初予算額	主な財源	OR元年度	OR2年度	
		—	—	—	—	—	—		OR元年度： — OR2年度： —		
活動指標名	厚生労働省要請現場数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				0 順調
	4	1	0	1	1	—	100.0%				
活動指標名	—				R元年度			0 順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			要請に基づき、厚生労働省により遺骨収集事業が実施された。 その他、戦没者未収骨壕等調査の結果に基づき、埋没壕等の危険を伴う現場での未収骨情報が得られた場合は、遺骨収集について厚生労働省に要請を行っていく。	
	—	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				R元年度			0 順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	—	—	—	—	—	—	—				
(2) これまでの改善案の反映状況											
令和元年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 既に収骨が終了したと思われる箇所から新たな遺骨が発見されたり、また、不正確な収骨・未収骨情報が存在することから、遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組んでいく。 未収骨情報を集中的に管理しボランティア団体等との連携を密にすることにより、埋没壕等危険場所の情報があれば速やかに厚生労働省に遺骨収集を依頼し、遺骨収集の加速化を今後とも進めていく。 						<ul style="list-style-type: none"> 遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組み、さらに収集した情報をボランティア団体等に情報センターを通して提供した。しかし、戦後70年を経過していることから情報の正確性が不十分な部分もあった。 埋没壕等危険場所（糸満市山城壕）の情報を厚生労働省に提供し、遺骨収集を要請した。 					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・これまで遺骨収集ボランティアとして活動されていた方々が高齢化のため引退されている。今後は遺骨収集活動を行う学生ボランティアなど若い世代へその取り組みが引き継がれるよう支援を行う。

○外部環境の変化

・戦後70年以上が経過し、戦争体験者の減少、高齢化により情報収集がよりいっそう難しくなっている。関係機関と連携し、さらに遺骨収集事業の加速化を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・遺骨収集を行っている団体やボランティア等から、壕等収骨現場の詳しい状況など精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。また、地域住民や市町村からも精度の高い未収骨情報の収集を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・既に収骨が終了したと思われる箇所から新たな遺骨が発見されたり、また、不正確な収骨・未収骨情報が存在することから、遺骨収集情報センターと連携を図りながら情報収集に取り組んでいく。

・未収骨情報を集中的に管理しボランティア団体等との連携を密にすることにより、埋没壕等危険場所の情報があれば速やかに厚生労働省に遺骨収集を依頼し、遺骨収集の加速化を今後とも進めていく。